

みんなが参加しやすい 防災訓練

ユニバーサル
デザイン
ガイドブック

1



イメージ
キャラクター

さいがい
そな

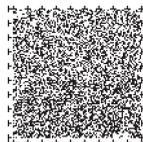
— 災害に備えてみんなのできること —



“ユニバーサルデザイン (UD)” とは…

年齢、性別、国籍、個人の能力等にかかわらず、できるだけ多くの人
が利用できるよう生活環境その他の環境を作り上げることです。

右のコードは目が不自由な人などへの情報提供に役立てられている音声コードです。
横の切欠きは、音声コードの位置を示します。



さい がい はっ せい
災害はいつ発生するかわかりません!



さいがい そな しんじゅく ぼうさいくねん じっし
災害に備え、新宿区では**“防災訓練”**を実施しています!



防災訓練の情報は
新宿区のホームページ
で確認できます。

災害が発生
してからでは
遅いのです!

たが いのち まも ひがい へ
お互いに命を守り、被害を減らすためには、
ひ ごろ ぼうさいくねん **みんな** さん か じゅうよう
日頃から防災訓練に**みんな**が参加することが重要です!

災害時、
自分も怪我を
するかも
しれません

まちには、高齢の人、車いすの人、目が不自由な人、
耳が不自由な人、外国人、子ども、妊娠中の人、子ども
連れの人、怪我をした人 などさまざまな人が住んでい
ます。また、外見では障害がわからない人もいます。

ぼうさいくねん さん か ひと
防災訓練では、みんなが参加できるように、さまざまな人の
ことを考え、できることから始めてみましょう!

この冊子では

これがユニバーサル
デザインへの一歩です!



はいりよ あんしん
どんな配慮があると安心なのかまとめています

具体的にはP6ページを見てね。

まちの **さまざま**な人

目が不自由な人

- 文字が見えない人や見えにくい人がいるので、書いてある内容は**読み上げ**てもらおうと助かります。
- 紙などに記入する場合は、**代わりに記入**してもらおうと助かります。



小さな子ども連れの人

- 子どもと手を繋いでいるので、**手がふさがっている**ことが多いです。
- 子どもから**目が離せない**ため、**声をかけて**もらおうと助かります。



耳が不自由な人

- 聞こえない人や聞こえにくい人は**文字を書いて伝えて**もらえると助かります。
- 口の動きから話している内容を読み取ることができる人もあるので、**正面を向き口をハッキリ**と動かして話してもらおうと助かります。



車いすの人

- 段差にスロープを設けるなど、**段差をなくして**もらおうと助かります。
- **段差のないルート**を表示してもらえると、**迷わず移動**できます。
- 車いすで入れる**トイレ**があると安心です。



外国人

- 文字だけでなく、**イラスト**などを使って説明してもらえるとわかりやすいです。



子ども



- **危険な場所**などには文字や**イラスト**での説明や注意喚起があると助かります。

高齢の人

- 段差に気が付きにくいので、**印がついている**と安心です。
- 小さな文字は読みにくいので**大きな文字**で書いてもらおうと助かります。



ぼう さい くん れん さん か き 防災訓練に参加してこんなことに気が

ほうすい くん れん しょう か き くん れん 放水訓練 / 消火器訓練

ホースや消火器の使い方を覚え、実際に消火体験します。

力が弱い人にはサポートがあると嬉しいです



おうきゅう きゅう ご くん れん 応急救護訓練

AEDの操作や担架の使い方を体験します。

手話通訳者がいると助かります



目が不自由な人には状況の説明があると助かります



和室にシートを敷くと、車いすの人も見学できます

マンホールトイレ / 仮設トイレの見学

災害時にマンホールの上に簡易なトイレ設備を設けたものです。

車いすの人が使える大型の仮設トイレもあります。これらの設備は避難所(学校など)や公園にも配備されています。

車いすから便器へ乗り移る体験ができると良いです



つ 付きました!!

さまざまな人に体験してもらうことが大切です



けむりたいけんくんれん 煙体験訓練

視界が悪く、地面に近いほど煙が少ないことを体験します。



きしんしゃくんれん 起震車訓練

過去の大地震の揺れを疑似体験します。



地震を知らない
外国人にも
体験してもらい
たいです

ただはいしよく 炊き出しと配食

バーナーを設置し、沸かしたお湯を使ってアルファ米を調理します。



火の近くに子どもが
近づかないような
工夫があれば安心です

いつ、どこで
配食するか、
呼びかけと文字で
案内があると安心です

コラム①



こ ひなんくんれん 子どもたちの避難訓練

0～3歳までを中心とした子どもたちが、お母さんやお父さんと一緒に避難場所になっている近くの公園まで避難する訓練をしています。

また、避難訓練の感想を話し合うことで、自宅での対策を思い出してもらっています。



防災訓練の時に **こんな配慮**があれば

point!

1

せつきよくてき こえ かお み し あんしん
積極的に声をかけて、顔見知りができると安心です

- ・日頃からのコミュニケーションが大切です。
- ・必要な配慮を知っていれば、いざという時に役立ちます。

point!

2

て つだ ないよう ほんにん かくにん たいせつ
お手伝いの内容は本人に確認することが大切です

- ・高齢の人や怪我をした人、妊娠中の人など困っている人を見かけたら、声をかけることが大切です。

point!

3

うけつけ くんれん かいじょう
**受付や訓練会場では
筆談も役立ちます**

- ・耳が不自由な人には、伝えたいことを紙に書くなど、“筆談”で対応します。紙とペンを用意しておきましょう。

● チャレンジ ●

ひつだんたいげん
筆談体験

スタッフが話している内容や説明を紙に書いて伝えてみましょう。筆談では要点のみを簡単に書きます。



point!

4

せつめい ないよう つた ゆうこう
説明内容はイラストで伝えると有効です

- ・外国人、子ども、耳が不自由な人にはイラストで説明するとわかりやすいです。

point!

5

くんれん ないよう ことば せつめい たいせつ
訓練の内容は言葉での説明が大切です

- ・目が不自由な人には、訓練の内容やまわりの状況を言葉で説明します。例えば『この先に段差があります。』
- ・配布されている資料に書かれている内容について読み上げ、情報を伝えます。

災害時にも安心です

災害に備え、日頃の防災訓練の時から準備しよう



point!

6

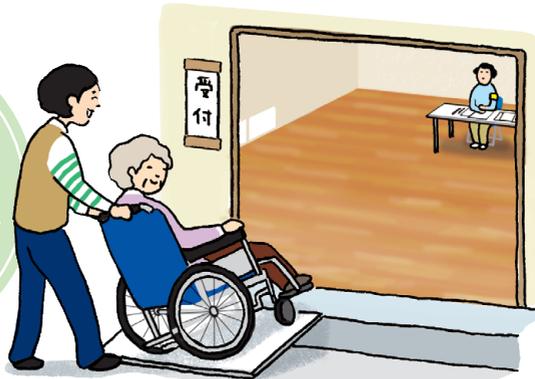
段差は“板1枚で解消”できます

- ・車いすの人にとって、小さな段差でも進めなくなるため、スロープ（仮設でも良い）を設置します。
- ・会場全体で、段差がなくスムーズに通行できるルート（バリアフリールート）を案内します。

チャレンジ

くるま たいけん 車いす体験

高齢の人や怪我をした人も車いすを使うので、会場の様々なルートを歩いてみましょう。



point!

7

しせん たか はいりよ あんない 視線の高さに配慮して案内します

- ・視線が低い子どもや車いすの人でも見やすい高さや位置に案内板や案内の紙を貼る工夫をします。
- ・遠くからでもわかるように大きな文字やイラストで書きます。

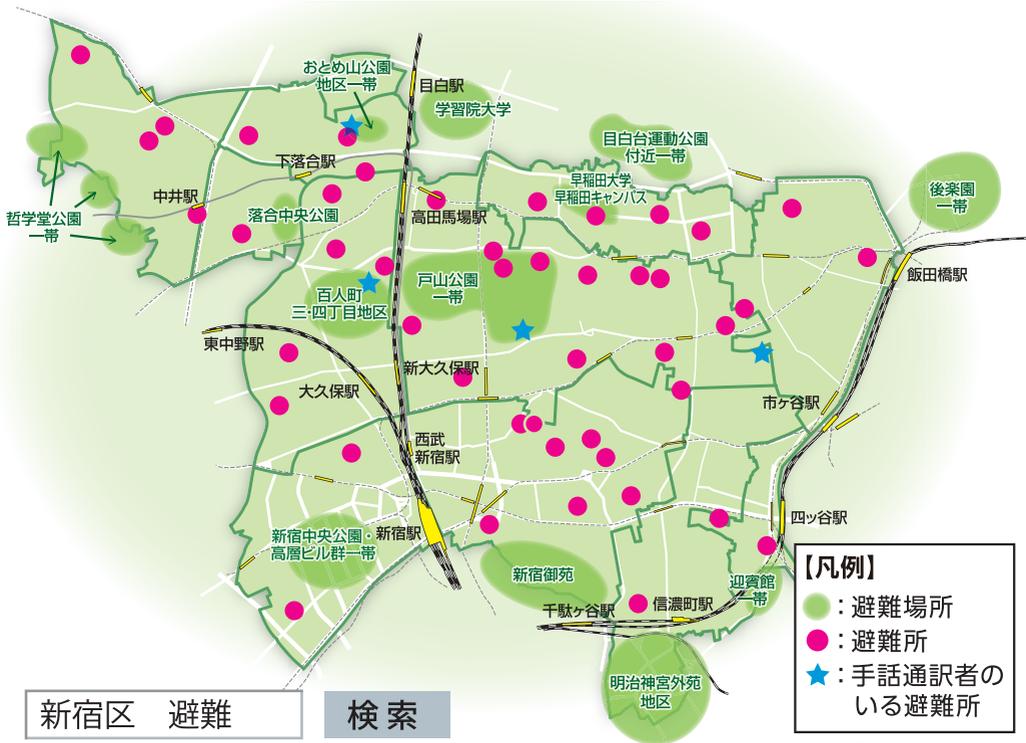
コラム②

しゅわ つうやくしゃ はけん 手話通訳者の派遣

耳が不自由な人の中には手話を使用する人がいます。災害発生時、新宿区内の4か所の避難所には手話通訳者が駆けつけることになっています。また、手話通訳者が参加する防災訓練も実施しています。



あなたのまちの避難場所・避難所



(平成27年1月現在)

▶ 避難場所とは (上の地図の ●)

大規模な延焼火災やその他の危険から身を守るために避難する場所です。主に大規模な公園や緑地などです。

▶ 避難所とは (上の地図の ● 及び ★)

住む家を失った人や、家で生活ができなくなった人の一時的な生活の場所です。主に区立の小中学校に開設されます。

▶ 二次避難所 (福祉避難所) とは

高齢者、障害者、乳幼児親子、妊婦などの特別な配慮を必要とする方々を対象に開設される避難所のことです。

編集・発行 新宿区 都市計画部 都市計画課
〒160-8484 新宿区歌舞伎町1-4-1
電話：03-5273-3527 FAX：03-3209-9227

印刷物制作番号
2014-4-4001

編集協力/新宿区 区長室 危機管理課

デザイン/株式会社アークポイント 有限会社レゾナ
イラスト/白玉社 杉野悦子

平成27年1月